

2021年3月27日から30日にかけて、オンラインイベント『大学院講義を高校生の君に。先端エネルギーオンライン講座』を弊社主催にて開催した。

講師には、私学で唯一文部科学省卓越大学院プログラムに選ばれた4名の早稲田大学教授をお招きし、1日ずつ講義をしていただいた。

- ・石井 英雄教授（早稲田大学スマート社会技術融合研究機構・研究院）
- ・石山 敦士教授（早稲田大学院先進理工学研究科）
- ・近藤 圭一郎教授（早稲田大学院先進理工学研究科）
- ・若尾 真治教授（早稲田大学院先進理工学研究科）

（氏名五十音順）

目的は、環境およびエネルギー研究の最先端に触れ、高校での学びがどのように最先端研究に関連しているのかを知ってもらうことである。計46名の高校生（および引率教員計20名）が参加した。

【参加者の声】

広尾学園高等学校 1年 新町 風雅さん

私は、学校にて光触媒を用いてより多くの水素を生成する条件を模索する研究をしている。この講座には自分の研究分野やその関連する分野がどのように実社会に応用されているかが気になって参加した。講義前は、自分の研究テーマでもある水素社会の実現こそが環境エネルギー問題の解決手段だと思っていた。しかし、パワーエレクトロニクスやコンピューターによる物理現象のシミュレーション、超電導などについてお話を聞き、自分の知らなかった技術も環境エネルギー問題の解決に貢献していることを知れてワクワクした。また、ディスカッションの時間などを通して、人々はもっと環境エネルギー問題について考える必要があると感じた。先生方がこの問題の解決に対して情熱に取り組んでいらっしゃる一方で、問題解決には研究の発展だけでなく政治的な判断が要求されたり、その判断を下す自分たちが他人事を感じていたりする現状がある。私自身がこの問題についてもっと当事者意識をもって考えていくと共に、自分の研究について話すときに環境エネルギー問題に興味を持ってもらえるような発信をしていきたい。

栄東高等学校 齋藤 皓之 先生

この度は貴重な機会を提供いただき、誠にありがとうございました。生徒たちも「なぜ勉強しなければいけないのか」「大学に入ってからどのような学びがあるのか、学べるのか」という普段から抱えている悩みに対して、解決の糸口が掴めたようです。高校での教科書による学びが、実社会で利用・応用されていることが実感でき、日々の学びの意義が高まり、動機付けが出来ました。専門的な内容を、細かい技術的・数学的な部分を高校生が消化できるよう工夫していただき、各分野の世界観を伝えていただきました。話題のレベル設定も実に丁度良く、生徒たちも程良い緊張感の中、聞き逃すまいと夢中になって取り組んでおりま

した。高校で学ぶ内容を掘り下げていく学び(習得や論拠)が大学での学びのスタートであり、その先に積み上げていく学び(応用・活用)があることを認識させることが出来ました。また、他校生徒と議論することで、ステレオタイプではない、夢のある自由な発想を展開できており、未来を創造的に広げていく面白さに触れられたようです。学校では引っ込み思案な生徒も積極的に発言しており、他者と協働する力が育まれたことを実感しました。このように、学校生活の中では得られない刺激と大きな経験を得ることが出来ました。今後もこうした企画には積極的に参加していきたいと思っております。誠にありがとうございました。

